

はじめに

《人口ビジョンの位置づけ》

- 人口ビジョンは、本市における人口の推移等の状況を分析し、地域住民と認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。
また、本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する上での基礎的な指標として最も重要なものです。

《改訂の目的》

- 令和3年度からの6年間を計画期間とする第2期松原市まち・ひと・しごと創生総合戦略を新たに策定するに当たり、国勢調査等の人口動態における最新の数値や状況の変化を踏まえた上で、人口問題に関する基本認識の共有を図り、将来の展望を提示する内容に改訂します。

《改訂の内容》

- (1) 将来人口推計の見直し
国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を基に、出生率や移動率といった値を独自に設定し、再推計。
- (2) 各種統計調査結果の反映
平成27年国勢調査をはじめとする、平成28年3月の人口ビジョン策定以降に新たに公表された各種統計調査の結果を反映。

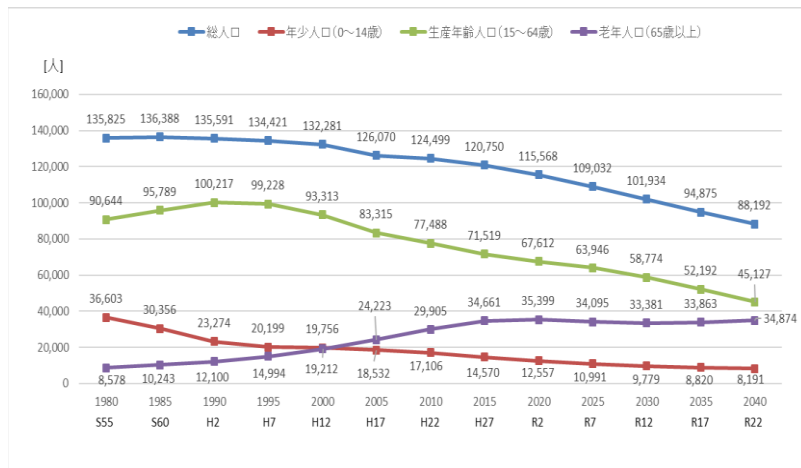
《前回（平成27年度）策定時からの主な変更点》

- 令和22年（2040年）の本市人口推計（社人研推計値） 94,521人⇒88,192人（▲6,329人）
- 合計特殊出生率 1.31（2008年-2012年）⇒1.34（2013年-2017年）
- 令和22年（2040年）の将来展望値（本市独自推計値）105,224人⇒102,036人（▲3,188人）

人口の現状分析

《人口の現状・将来人口推計》

- 平成27年（2015年）、松原市の人口は120,750人。将来的にも人口減少が進行すると予測。
- 「国立社会保障・人口問題研究所」の予測では令和22年（2040年）では88,192人になると推計。



《本市の人口動向》

- 自然動態について
 - ・近年は死亡数が増加傾向にあるのに対し、出生数は減少傾向となっており、平成19年以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」の状況。
 - ・合計特殊出生率については、1.34となっており、改善はされているものの、全国の1.43よりも0.09ポイント低く、大阪府の1.37よりも0.03ポイント低くなっています。
- 社会動態について
 - ・転出が転入を上回る、「社会減」の状態が続いてきましたが、近年は、転入が横ばい傾向で、転出は減少傾向にあり、平成30年には転入が転出を上回る、「社会増」へ。
 - ・人口移動を年齢階級別にみると、10～19歳未満の人口区分が転入超過となっている一方、20～29歳までの人口区分については転出超過となっています。このことから年少から学生等になる時期（社会人になる直前の世代）に転入し、社会人になる時期に転出しています。

目指すべき将来の方向

《目指すべき将来の方向》

- 本市の人口動向を踏まえ、20歳から39歳までの若い世代が健康で安心して暮らすこと、また不安や負担を感じることなく、安心して子育てができるまちをめざし、結婚・出産・子育てへの支援や、若い世代の移住・定住の促進に係る取組など、若い世代の希望をかなえる施策を引き続き行っていきます。
- また、新型コロナウイルス感染症に起因する雇用への影響も懸念される中、雇用を守るための対策を講じるなど、総合的に施策を展開していくことにより、長期的に目指すべき方向を下記のように設定しました。

松原市で生まれ、松原市で学び、松原市で働く
そして、松原市で家庭を築き、松原市で子どもを産み育てる
という好循環を創る



人口の将来展望

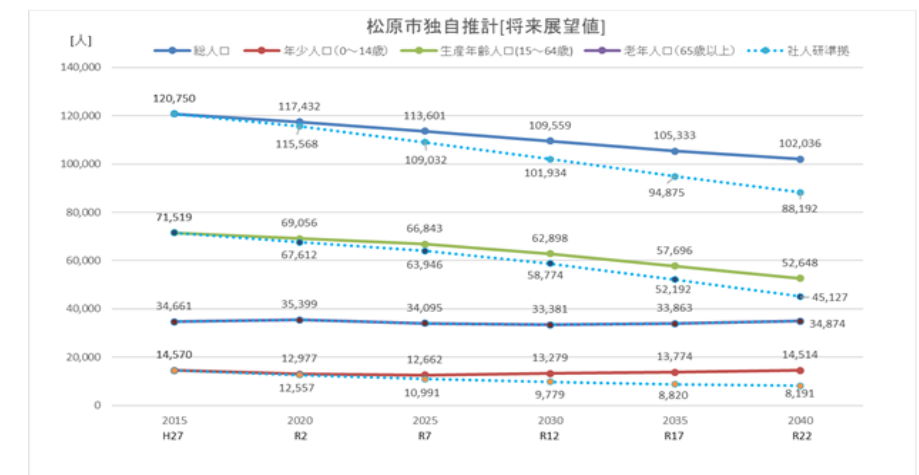
《人口の将来展望》

【社会増減の仮定】

- 20歳～39歳までの若い世代の希望をかなえる施策を実施することにより、20歳～39歳の転出超過を0と想定

【自然増減の仮定（合計特殊出生率）】

- 2020年に1.34、2025年に1.6、2030年に1.8、2040年に2.07。
※2020年仮定値は直近実績値（2013年～2017年）、2025年以降は国仮定値



若い世代の子育て、定住への施策等を推進し、
2040年で102,036人の人口確保を目指す